

○ 会 議 録

会 議 名	令和3年度 第1回 基山町都市計画審議会専門部会			
開催年月日	令和4年1月14日（金）			
開催場所	基山町役場 3階 301会議室			
開閉会日時	開会	10時25分		
	閉会	12時15分		
出席者並びに 欠席者 出席 7名 欠席 1名	氏 名	出・欠	氏 名	出・欠
	柴田 久	出	宮崎 厚志	出
	久保山 多喜子	出	栗野 久明	出
	堀田 政二	欠	原 則幸	出
	水田 久男	出	梁井 正義	出

傍聴者 0名

～ 10時25分 開会～

発言者：事務局

定刻前ではあるが、皆様お揃いのため令和3年度第1回基山町都市計画審議会専門部会を開催する。それでは、はじめに町長の松田よりご挨拶を申し上げます。

発言者：松田町長

本日は忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。本日の議題である都市計画マスタープランの見直しについては、町政の骨格となる総合計画を決めるうえで最も重要な要素となる計画だと考えている。基山町都市計画マスタープランは前回の作成から約20年が経過するが、今の時代の流れの中では、20年のスパンではもう遅いのではないかと考えている。特に基山町は都市計画法における線引きがあり、佐賀県内では佐賀市の一部と鳥栖基山だけが市街化区域と市街化調整区域が分かれている状態。基山町においては市街化調整区域も多く、現在は地区計画等での開発を行っている箇所、今後開発を予定されている箇所も多くある。どこを開発し、どこを残すのか、どこに何を建てるのか、発展だけではなく、自然などをどう守るのか。ここでの議論はとても大切なものであり、基山町の未来に関わるものである。より良い基山町にしていけるよう、ぜひそれぞれの立場からのきたんのないご意見をお願いします。

発言者：事務局

引き続き、委員の皆様へ委嘱書の交付を行う。

(委嘱書の交付)

発言者：事務局

松田町長は公務のため、ここで退席とさせていただきます。

(町長退席)

発言者：事務局

それでは、第1回ということで委員及び事務局の紹介を行う。名簿順にお名前をお呼びするので、一言ご挨拶をお願いします。

(委員及び事務局の紹介)

発言者：事務局

またオブザーバーとして、佐賀県まちづくり課の矢野係長様、中村様、佐賀県東部土木事務所の井上課長様にご出席いただいている。

発言者：事務局

本日の委員の出席者数は7名。基山町都市計画審議会専門部会設置要綱第5条第2項に基づき、過半数の出席があるため、本部会が成立していることを報告する。なお、柴田委員には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでご参加いただいている。

続けて、会長及び副会長選出について担当より説明する。

発言者：事務局

基山町都市計画審議会専門部会設置要綱第4条第2項により、「部会長及び副部会長は、委員の互選により定める」とされている。互選のため、部会長と副部会長の推薦をお願いします。

発言者：事務局

互選となっているが、どうか。

(事務局一任の声有り)

発言者：事務局

事務局一任とあったため、事務局より部会長を柴田委員、副部会長を水田委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

(全員異議なし)

発言者：事務局

ご異議ないようなので、部会長を柴田委員、副部会長を水田委員にお願いします。それでは改めて柴田部会長と水田副部会長からご挨拶をお願いします。

(柴田部会長、水田副部会長から挨拶)

発言者：事務局

これより議事に入るが、本日は柴田部会長がオンライン参加のため、議事進行については水田副部会長をお願いします。

発言者：水田副部会長

承知した。それではこれより議題に入る。(1) 基山町における現況と課題について、事務局から説明をお願いします。

発言者：事務局

議題に入る前に今回が初めての会議となるため、本部会の位置づけと今後の予定を簡単に説明する。別紙資料。本部会は都市計画審議会の専門部会として都市計画マスタープラン見直しについて調査審議を行うために設置されている。任期は調査審議の終了までとなるため、来年度いっぱい

の予定である。

次に裏面のスケジュール表。今年度から来年度にかけての都市計画マスタープラン見直しのスケジュールを記載している。「2. 住民意向調査」については、令和3年9月上旬に町民アンケートを実施し、777名にご回答いただいた。時間の都合により詳細な説明は省略するが、お手元にアンケートの集約結果をお配りしているの、後程ご確認いただきたい。また、「10. 会議等の運営支援」の「都市計画審議会専門部会」が本日の会議にあたるが、今後は令和4年度の7月、11月、2月の計4回の開催を予定している。スケジュールについての説明は以上となる。

それでは、(1) 基山町における現況と課題について、平成18年に策定した現行の都市計画マスタープランの整理と検証を行い、基山町における現況と課題を整理した。詳細については昭和株式会社より説明を行う。

発言者：昭和株式会社

それでは(1) 基山町における現況と課題について、説明を行う。資料「都市の現況分析・課題整理」を使って説明をしていく。

1 ページ。「1. 人口動向から見た課題」について。基山町においては平成29年以降、人口が横ばいに推移しており、これは平成28年度より実施している移住定住施策が影響していると考えられる。また、アンケート結果からは移住してきた方が長く住んでいるという事が特徴として挙げられる。今後は鉄道駅周辺などの利便性の高い箇所への人口誘導を図り、将来的な移住先として選ばれる環境形成が望まれる。

2つ目の課題について。周辺市町と比較しても、基山町の高齢化率は高い値で推移しており、将来的なエリアごとの高齢化率を見ると、けやき台は50%を超えており、高島団地周辺も40~50%と高い値になっている。このことから、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを行うことが重要となる。

3つ目の課題について。自然増減の状況を見ると毎年50名ほどの自然増減が発生しており、社会増減の状況については、平成29年以降は転入数が転出数を上回っている状態。その一方、出生率等を調べると全国、佐賀県全体と比較して平均よりも低い値となっており、これは若い世代の転出が影響しており、将来的には子どもの数が減少していく見込みとなっている。そのため、安心して子供を産み育てられ、進学、就職後も住み続けたい魅力づくりが必要となる。

2 ページ。「2. 土地利用状況から見た課題について」。現在は住宅の着工や宅地の取得については市街地外縁部でされており、中心市街地である基山駅周辺は宅地化できるような低未利用地や住宅の流通が少ないことから、住宅着工や宅地取得はあまり行われていない。また、鉄道駅から1km圏内のエリアを見ると、市街化調整区域に指定されている箇所があり、需要はあるものの宅地としての整備ができない状況である。そのため、これらの利便性の高い箇所への居住誘導を目的とした都市基盤整備が望まれる。その他、アンケート調査の意見として「子供を連れて遊べる公園が欲しい」といった意見が多かったことから、公園の機能向上による子育てしやすい環境整備が望まれる。

工業環境整備の方向性については、約6割が「住宅地との住み分けを図りながら積極的に企業誘致を行うべき」と回答しており、既存の工場の維持や新たな工場の誘致による雇用の維持、拡大が望まれると考えられる。

次に「3. 公共交通の利便性・持続可能性から見た課題」について。基山町においては、鉄道の利用割合が2割程度となっている。JR鹿児島本線の利便性が高いことから、基山町から町外へ通勤・通学する人が多い一方、町外から基山町に通勤・通学している人も多い状況。しかし、将来的に基山駅周辺は低密度化が進む見込みのため、減便等を避けるためにも、人口維持によって公共交通の利便性維持を図る必要がある。また、九州自動車道基山パーキングエリアは九州管内を運行する高速バス停留所（高速基山停留所）が立地しており、この広域的移動が可能な拠点を最大限活用するために町内主要拠点から高速基山停留所へのアクセスできる環境づくりが望まれる。町内移動を目的とした交通手段については、コミュニティバスがあり、平成30年の調査結果では高齢者が主に買い物や通院で利用している傾向があった。今後高齢者人口は増加する見込みのため、コミュニティバスの需要も増加すると想定されることから、将来的な高齢者人口を踏まえた公共交通の充実が必要となる。また、アンケートにおいて「路線の行先、経由地を分かりやすくしてほしい」「一日の運行本数を増やしてほしい」といった意見が多数寄せられており、利便性改善に努める必要がある。

3ページ。都市機能の状況については、アンケート結果より中心市街地である基山駅周辺について不満を感じている人がやや多い傾向にあった。このことから、日常生活に必要な機能の集積による魅力向上が望まれる。続いて、都市基盤の整備状況から見た課題について。基山町においては多数の民間開発が行われてきたが、箇所によっては高齢化が特に進んでいる状況がみられる。町内の2つの小学校には児童数に偏りが生じており、このことから若者世代の居住誘導による高齢化が進む地区への若返り促進を図る必要がある。また、アンケートの結果で「街路樹が育ちすぎており、歩きづらい」などといった意見が目立ったため、街路樹の定期的な維持管理による利用しやすい環境形成が望まれる。

次に都市環境の面から見た課題について。アンケート結果においては農業の担い手不足による耕作放棄地の増加が懸念されている。農地環境は基山らしさを象徴する景色の一つであり、良好な住環境がありながら気軽に田園環境に触れ合えることは、移住先として選ばれるためにも重要なポイントである。そのため、担い手確保を図りながら、農業環境の維持を図ることが望まれる。また、町の西側には豊かな森林がある。森林の生い茂っている箇所は土壌が木の根で固定されており、土砂の流出を防ぐ機能があることから森林の維持も重要となる。アンケート結果においては、基山町は災害が少なく住みやすい町といった意見が多数寄せられた一方で、近年激甚化する災害に対応するためのまちづくりが必要となる。その他、農地から産業用地や宅地に転用を図るべきという意見も多数寄せられた地域があり、それらの地域においては地域のポテンシャルや実情を踏まえた土地利用の検討が必要となる。

最後に、防災上の安全性から見た課題について。町内において想定最大規模の降雨があった際には、基山駅より南のほとんどのエリアで浸水リスクが指摘されている。地域によっては避難所に向かう際に川やアンダーパスを通る必要がある箇所があるため、避難所の維持向上、避難情報の周知による安全性の確保が必要となる。

説明については以上となる。

発言者：水田副部長

ただいまご説明頂いたが、ご意見などはあるか。

発言者：委員

総合計画では人口目標が18,000人となっているが、その人口目標を踏襲しての計画になるという考え方でよいか。

発言者：事務局

現在の総合計画の人口目標に合わせて18,000人に設定したいと考えているが、数年後に総合計画の見直しが行われた際に人口目標の人数が大幅に変われば、併せて都市計画マスタープランも見直しが必要になると考えている。

発言者：委員

基山駅・けやき台駅近隣の市街化調整区域に関しては、市街化調整区域であること自体をどうにかしないと厳しいのではないかと。また、けやき台北側のあたりは農業には不向きな土地であることからこのあたりの有効利用も検討してほしい。鉄道駅周辺や国道周辺は業者による小規模開発が行われる事により、残った土地は道が狭くなり、入れないもしくは活用できなくなっているところがある。その辺りの残ってしまう土地についても町には考えて頂きたい。

発言者：事務局

けやき台北側については、現行のマスタープランでは山林の保全を目的とするエリアに位置付けている箇所もある。今回の見直しで住民から住宅地として活用したいという声が多ければ、そういった検討もしていきたいと考えている。

発言者：委員

住民からの住宅開発の要望などが出ている地域については、そういった相談も受けながら前向きに検討をお願いしたい。

発言者：委員

基山町に移住してきている方は、やはりけやき台など新しく開発された新興住宅地に住んでいる方になるのか。

発言者：昭和株式会社

詳細については調べていないが、区ごとに調べることは可能なので、そのあたりについても整理をさせて頂く。

発言者：委員

先ほど梁井委員から農地関係の話もあったが、残された水路や里道の管理をどうしていくか、検討していかなければならないと考えている。もう一点、新たに整備される箇所においては必要な箇所には防犯灯を設置するなど計画段階から協議を行ってほしい。

発言者：事務局

まず先の意見について、全員という事はないが新興住宅の方は多いと考えている。水路と里道の管理に関しては、開発が終わった後に問題になることが多く、現在相談があるものについては各関係課を交えて話をする事としている。防犯灯については、住宅開発の際には町の担当課から業者に街路灯設置の要望を出しており、今後もそういった対応を行いたいと考えている。

発言者：事務局

事務局からだが、柴田部会長からはご意見などあるか。

発言者：柴田部会長

今後、マスタープランの見直しは現状と課題を踏まえ、まちづくりの全体的な構想を考え、地域別に構想、方針を考えるという大きな範囲から小さな範囲に絞っていくといった形になると思う。基山町は大きくどういう方向に持っていくべきなのかを議論しなければいけないと考えており、例えば、最近のマスタープラン見直しを行った市町は防災上の見直しを行っている所が多い。基山町は個人的に災害に比較的強い町だと思っているが、現状だから災害に強いといった見方もできる。先ほど農地関係の話があったが、遊休地や耕作放棄地であっても、実は遊水地として機能しており、豪雨時に河川への急な流入を防いでいるケースもある。そのため、部分ごとに考えることも大切だが、町全体における農地の転用については防災的な観点から考えたほうが良いのではないかと感じた。やはり人口が横ばいになっているのは基山町の強みであり、その背景には子育て世代の転入が多いことがあると思う。どういった方が移住者であるのか、そのニーズをつかみ続けることが大切である。特に近隣市町がある中で基山町を選んだ理由を移住者に確認できるようなプロセスがあるのであれば、お伺いしたい。

発言者：事務局

基山町において平成28年から住宅取得補助金という補助制度を行っており、制度の利用者にアンケートを実施しているほか、毎年3・4月の転入出の時期に転入者へのアンケートを行っている。その中では福岡市内に電車で通勤といった方が多いという結果が出ており、住宅の取得を行う中で福岡県では価格が高いことから基山町が選ばれていると考えている。

発言者：柴田部会長

職場への通勤手段としては、自家用車が多いのか。

発言者：事務局

自家用車もしくは電車が多い。

発言者：柴田部会長

アンケートの中に駅前に対する意見が多くあったと思うが、駅周辺の魅力に関しては特に若者が気にすることが多い。そういう交通結節点の在り方というのが基山町はまだまだ他市町に比べると未発達な部分があると感じている。

発言者：委員

移住に関して、現在小学校の人数が偏っている現状があり、教室の不足なども問題になっている。今後議会としても対策については検討していくが、若い世代を呼び込む中で事務局としてはどのように考えているか。

発言者：事務局

基山小学校と若基小学校の人数格差については、町としても問題視している。子どもが小学校に通う期間は6年間と短いため、教室を増やすなど臨時的な対応をしている。今後住宅建設が見込まれている所もあるため、根本的な見直しが必要になると考えている。ただ具体的な対策等については今後検討していく段階である。

発言者：委員

定住促進課のみの問題でなく、町全体で取り組むべき問題であり、対策の検討に当たっては、立ち遅れることなく進めていってほしいと考えている。

発言者：柴田部会長

教育問題は非常に重要な問題であり、福岡県春日市では教育的な質が高く、環境が整っているという事で、福岡市内からの引っ越しも多い。都市計画の観点からすると、通学路や自然あふれる遊び場があるのか、スクールバス、登下校の状況に対して、交通利便性はどうかを議論する必要があると思うが、そのあたりのデータは何かあるのか事務局にお尋ねしたい。

発言者：事務局

マスタープラン策定のために中学2年生にもアンケートを取っており、その中でも「道路がぼこぼこしている」「通学路が歩きにくい」といった意見もあったため、その点についてはもう一度見直していかなくてはいけないと考えている。通学のバスに関しては、計画中だが、若基小学校の生徒数が少ないので、「小規模特認校制度」という基山小学校区の生徒も若基小学校に通えるといった制度を作っており、その制度を利用して若基小学校に通う子は学校への距離が遠くなることから、それにコミュニティバスを使用できないかを教育学習課と協議している所であり、都市計画の観点からも教育の質に関わるのではないかと考えている。

発言者：柴田部会長

どこの市町においてもコミュニティバスの運行本数を増やしてほしいという意見は出るが、実態としてはほとんどの市町が赤字を抱えている状況。今後自動運転等の新技術をはじめ20年後には今より色々変わっている部分があると思う。その辺りを見据え、財政的なことも含めてコミュニティバスやスクールバスに関しては、その対策をマスタープランに記載することを検討してほしい。もう一点、まちづくりの方針の中で道路整備は大きな要素を担ってくるが、全国的に車道よりも歩道を整備するという流れになっている。歩いて楽しいまちづくりが住環境にとって大切だという風になっている。基山町はコンパクトなまちというのが、他市にない一番の魅力だと考えている。車から人中心の道づくりを見直しの中で検討していく必要がある。

発言者：委員

近隣市町の取組を参考に、保育園の手続きの簡素化に取り組んでほしい。また、基山町は現在待機児童0となっているが、希望の園に入れなかった子もいるため、そのあたりの問題はあると考えている。

併せて街路樹の管理不足などが意見として挙がっていたが、町内においては人が通れないほど草が生い茂っている歩道もあり、維持管理については一年を通して全体的に行ってほしい。

発言者：事務局

歩道に関する意見に対しては、アンケート結果にも多く意見があったため、町としても真摯に取り組んでいきたい。保育園等の件については、おっしゃるような待機児童はいないものの希望の園に入れないといったことは実際に起きている。こども課の方でも募集の際に希望の園に入れるよう振り分けは行っているが、今後もできるだけ希望に沿えるよう検討していきたいと考えている。

発言者：水田副部長

その他にご意見等あるか。

なければ(2)都市計画マスタープラン地域別懇談会の当日資料について、事務局より説明を。

発言者：事務局

冒頭でも触れさせていただいたが、1月22日に都市計画マスタープランの地域別懇談会を実施することとしている。現行の基山町都市計画マスタープランでは町内を3つに分けており、地域1がげやき台周辺、地域2が基山駅周辺と長野の工業団地周辺、地域3が主に山間地エリアとしている。それぞれの地域ごとに地域別方針というものがあり、今後、地域別方針を検討していくにあたり地域別懇談会を実施する予定。当日資料について、昭和株式会社より説明をお願いする。

発言者：昭和株式会社

それでは都市計画マスタープラン地域別懇談会(地域1・2・3)の資料を使って説明していく。まず1から5ページについては、日本全国の動向といった所で、人口減少や高齢化によりどういった影響があるかを整理したもの。6ページから12ページについては基山町のまちづくりの取組として、現行のマスタープランの内容や移住定住施策・各種計画について記載している。13ページ以降はアンケート結果の報告としており、13ページから17ページについては、地域において「満足度の高かった指標」、「低かった指標」、「重要度の高かった指標」、「町の中心市街地の在り方について」の整理をしている。18ページ以降は「今後の住環境整備、工業環境整備、農業環境整備について」の行政区ごとの集計結果を載せているほか、「コミュニティバスを利用しない理由」、「将来基山町がどのような町になっているといいか」について、地域ごとの結果を載せている。最後に23ページ以降については、意見交換という事で、まちづくりのポイントになる部分についてテーマを設定しているが、こちらに関しては説明を省略させていただく。

説明は以上となる。

発言者：水田副部長

ただいまのご説明について、ご意見等あるか。

発言者：柴田部長

都市計画マスタープランの見直しにおいて、町民の意見を聴取する機会は必ず必要になるので、今回の地域別懇談会は非常に重要な位置付けとなる。資料についても、全地域共通の内容で行うのではなく、地域ごとにまとめていることは素晴らしいことである。一方で1点お願いとして、地域別懇談会での意見については、その意見がどの場所においてのものなのかをしっかりと聞いてほしい。事務局には、懇談会の中で改善策を出すのではなく、どの地域のどこにどういった課題があるのかをしっかりと持って帰ってきていただきたいと考えている。

発言者：委員

同じく私も1点お願いになるが、宅地開発などで利便性を追い求める一方、自然が必要だという声もある。その辺りにも焦点を当てて意見聴取をお願いしたい。

発言者：委員

現状、地域3は中山間地という事になっているが、そういった中でアンケートの結果としては宅地化してほしい人や農地の維持を図ってほしい人など様々な意見がある。また、主な意見として上下水道を整備してほしいという意見があるが、現状の町の方針としては県道17号線より上の区域には上下水道は引かないとなっている。現行のマスタープランでは県道17号線より北の区域は農地として残すという方針になっているが、後継者問題も含め、最も農地の維持に困っているのはこの区域である。よって区域の見直しを検討することと、意見の掌握が必要だと考えている。

発言者：事務局

アンケートの意見として、特に6区においては地域1と3の両方にかかっている区であるため、今回のような回答になったものと考えている。上下水道については、建設課が現在下水道の区域見直しを行っており、今回の整備計画では県道17号線より上の区域について下水道の整備は行わないとなっているが、今回のマスタープラン見直しの際に住民から出た意見として、今後擦り合わせを行っていきたいと考えている。

発言者：水田副部長

その他意見ないか。ないようであれば、本日の審議は以上となる。事務局に進行をお返しする。

発言者：事務局

ありがとうございました。

これをもって、令和3年度第1回基山町都市計画審議会専門部会を終了させていただく。皆様お疲れ様でした。

～ 12時15分 閉会 ～